

地域の産業界、医療福祉、サービス業などで進むDX化 — 携開設科目の試行「域学共創ワークショップ/DX概論」 —

今年度後期の連携開設科目の試行として、「DX概論」が国際文化学科の「域学共創ワークショップ」の中で行われました。12月14日、21日、1月18日の3回にわたって山口大学からオンラインで講義を受け、県内の事業所におけるDX化の実例も紹介されました。

12月14日は、結婚式場運営を中心とした総合ブライダル企業である**株式会社原田屋**から、コロナ禍を契機にオンライン結婚式の実施など、DX化に取り組んでいる事業説明がありました。受講した学生からは以下の感想が寄せられました（一部掲載）。

- ・DX革新で、データや技術を利用するだけで終わるのではなく、その先の事業につなげたり、顧客満足につなげたりすることが目標であると知った。今回のブライダル業界の話はまさにその例だと思った。
- ・DXを活用して、コロナ禍でもお客様や社会のニーズに対応し、適した形や最善の形に進歩していく企業のリアルな様子を知ることができた。
- ・ブライダル業界のDX事例について学び、DXを導入することで様々な課題を解決できることが分かった。
- ・DXの活用は、大きな社会の中で行われるものだと思っていた。しかし、オンラインウェディングなど、小さな会社でもDXを積極的に活用していくことで、一人一人が豊かな生活を営むことができる。

12月21日は、医療や介護、福祉分野で事業を展開する**青藍会グループ**から、病院や施設内で取り組んでいるDXについて説明され、受講した学生からは以下の感想が寄せられました。（一部掲載）

- ・データを使うこと、さらにそこから新しいもの、仕事につなげることが大事なのだと感じた。
- ・今後もますますDXが進み、デジタル機器などの操作において高いスキルが必要とされるだろう。そういうのは理系の仕事だと決めつけるのではなく、文理融合の時代だと思って勉強する必要があると感じた。
- ・DX人材育成を可視化することの大切さを知ることができました。様々な施設でのDX化に向けた活動であったり、現状であったありを写真や具体的な説明を通してお話してくださったので、非常に理解しやすかったです。
- ・看護や福祉現場でのDXを活用した改革について、詳しく学びました。医療カルテと介護カルテを統合させたネットカルテというアイデアに驚きました。ITを活用して利用者の情報を多職種が必要な範囲で共有をしなければ効率的なサービス提供はできないことを学び、多分野での提携が必要であることが印象に残りました。



1月18日は、セラミックパッケージなど電子部品を製造する**NGKエレクトロデバイス株式会社**から、製造過程で導入しているDXについて説明を受け、受講した学生からは以下の感想が寄せられました。（一部掲載）

- ・デジタルDXと聞くと複雑な構造を想像してしまっていたが、私たちでも想像できる状況で使われていることがわかった。新しいものが現れた時、「自分にはわからない、関係ない」と遠ざけるのではなく、「どのようなものなのか、活用することはできないか」と考えることが大切なのではないかと考えた。
- ・モノづくりDXによって全プロセスをつなぐことで、スムーズに連携もとりやすいと知った。DXが進むことで今まで課題だったことが解決したり、プロセスが簡単になったりするなど良いことが多いと思った。
- ・データを可視化することがいかに大切で、どれだけ効率上がるのかを、具体的な写真を通して説明してくださったので、とても理解しやすかったです。
- ・モノづくり業ならではの、見える工場、自動化工場に向けた取り組みや、モノと連携してデータも動かすというDXに向けた発想を新たに学ぶことができた。

「域学共創ワークショップ」では3回という限られた時間ではありましたが、県内事業所の具体的なDXによる課題活用事例を企業の担当者から聞くことができました。データやデジタル技術を活用したDXによる課題解決は、産業界や医療福祉の現場、サービス業など各方面で進んでいます。

2024（令和6）年度から学年暦、時間割が3大学間で揃います

連携開設科目タスクフォースチームでは、3大学間の学年暦、授業時間の調整について議論してきました。本学の2024年度の学年暦は既に学内専用ウェブサイトに掲載されています。

- ①授業開始日を3大学とも同じ日に設定した（2024年度は4月10日）
- ②山口大学と本学の冬季休業期間を調整し、10日間とした
- ③これまで休業日としていた開学記念日は、他の2大学と同様に授業を行うこととした

ことにより、連携開設科目が行いやすい環境となりました。

また、2024年度より山口大学が授業時間を調整することから、10分間の授業開始時間のズレが解消し、来年度の連携開設科目（試行）の運営がスムーズに行われることとなります。

韓国慶南大学校との交流

2023年10月30日、31日の両日に韓国慶南大学校で開催された「2023産学協力人材養成韓日国際カンファレンス—地域革新中心の大学支援体系(RISE)地域定住人材養成のための大学教育革新—」に本学が招待され、吉村副学長、国際文化学部の林教授、藏田講師、木下実習助手の4名が参加し、本学が取り組むSPARC事業やDXによる地域課題解決(PBL)について講演を行いました。

当カンファレンスは慶南大学校の主催で、韓国から韓国エネルギー工科大学、韓陽大学などが、日本からは本学の他に広島修道大学が参加しました。

1日目は、吉村副学長が「地域活性化人材SPARCと山口県立大学の取組—人間中心の視点からDXを実践し、ひとや地域をも課題解決のために貢献できる人材育成—」と題して講演を行いました。2日目は、具体的なPBL事例を中心に報告が行われ、林教授が「多文化共生社会の教育課題解決のための官学地域連携PBL—外国人児童生徒のためのオンライン日本語指導—」と題した講演を、藏田講師が「山口県立大学地域連携PBL—印刷会社と不動産会社を例に—」と題した講演を行いました。

今回の慶南大学校におけるカンファレンス招聘は、2023年2月1日に慶南大学校の研究者を招いて本学で実施した「現場密着型地域人材育成 産学研連携教育課程 イノベーション」に続く慶南大学校との交流となります。今後、地域が求める人材育成の中核的な役割を担うと期待されるPBLに焦点を当てた2大学間の交流が、ますます活発化すると期待されます。



編集後記

今回のニュースレターでは、後期の連携開設科目試行である「域学共創ワークショップ/DX概論」の中で山口大学から配信された県内3つの事業所のDXの取組について、受講した学生の感想を取り上げました。多くの学生たちが事業所の効率的な運用のために導入しているDXについて学び、率直な感想を寄せていました。

来年度は、連携開設科目の試行科目としてさらに「データ科学と社会」が加わります。授業を通じてDX化という社会の変化に対する理解が進んでいくことが期待されます。